

診療科	初診/再来	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	
精神科	初診	常勤医師による交代制(午前)					
	再来	柏木・亀井 佐竹・菅原	岡崎・功刀 野田・堀 吉田・吉村	坂田・佐藤(英)・田口 竹田・古田・横井	岡崎・高野 平林・藤井	井上・大森・住吉 中込・船田	
	専門外来	【統合失調症外来】 住吉	【CBT】 小林・平林・松田(悠) 【気分障害先端医療センター】 功刀(本診)	【統合失調症外来】中込 吉村 【うつ専門外来】野田(初) 【mECT外来】野田(初) 【CBT】平林・松田(悠)	【統合失調症外来】 吉村 【薬物依存症外来】 谷淵・松本(初・再)・船田 【気分障害先端医療センター】 石井(予診)	【統合失調症外来】 岡崎・竹田 【気分障害先端医療センター】 吉田(本診)	
てんかんセンター	初診	(成人/脳外科)金子	(小児)佐々木・中川 (成人/脳外科)池谷 (成人/神経内科)金澤	(成人/脳外科)金子	(小児)須貝	(成人/精神科)岡崎 (成人/脳外科)岩崎 (小児)齋藤(貴)	
睡眠障害センター	初診・再診		亀井	三島	亀井		
認知症センター	初診	高野(精神科)	横井(精神科)		塚本(神経内科)	坂田(精神科)	
心療内科	初診		富田			富田	
	再来	安藤	富田	富田		富田	
脳神経外科	初診		岩崎	【DBS外来】木村		木村	
	再来	金子	池谷・岩崎	金子・木村	金子	岩崎・木村	
神経内科	午前	初診	齋藤(ゆ) 【ポツリヌス治療外来】坂本	金澤・高橋(祐)		荒木・塚本 森	
		再来	大矢・岡本・坂本 佐藤(和)・向井・山村	坂本・齋藤(ゆ) 山本・山村・林 【飲み込み外来】山本		大矢・高橋(祐) 村田・山本 荒木・坂本・齋藤(ゆ) 塚本・水澤・山村	
	午後	初診	佐藤(和)・向井	村田	青木(隔週)	岡本・林	山本【飲みこみ外来】山本
		再来	大矢・岡本 金澤・齋藤(ゆ)	木村(第2)・高橋(祐) 森・林 大矢・木村・森(第4)	青木・中村	大矢・岡本・高橋(祐) 向井・山本	荒木・金澤・齋藤(ゆ) 塚本・森・林
多発性硬化症センター	午前				(成人)荒木 (小児)齋藤(貴)		
	午後	(成人)佐藤(和)	(成人)山村		(成人)岡本・林(交代)	(成人)山村	
筋疾患センター		(成人)大矢(小児)小牧	(成人)森(小児)石山	(小児)小牧		(成人)森	
小児神経科	初診	石山・須貝・本橋	齋藤(貴) 佐々木・中川・本橋	石山	齋藤(貴)・須貝・竹下	稲垣(紹介患者のみ) 加賀・齋藤(貴)・佐々木	
	再来	石山・小牧 須貝・中川・本橋	齋藤(貴)・佐々木 須貝・本橋・中川	石山・稲垣・埜中	後藤・小牧 須貝・竹下・中川	齋藤(貴) 佐々木・須貝・中川	
リハビリテーション科	午前	初診/再来	小林	早乙女	小林 補装具・車椅子診(内科で予約)	小林 補装具・車椅子診(内科で予約)	
	午後	初診/再来	小林 補装具・車椅子診(内科で予約)		小林	小林	
外科	初診/再来	豊田		三山	豊田	三山	
消化器内科	初診/再来	有賀	有賀		有賀		
循環器内科	初診/再来	瀬川		瀬川			
総合内科	初診/再来	瀬川	有賀 【禁煙外来】瀬川	瀬川	富田 【IBS 外来】		

オレンジ・・・非常勤医師 緑・・・研究所所属医師

ご予約方法

外来診療は初診・再来とも予約制となっております。ご予約は下記の要領にてお願いいたします。

■患者・ご家族からのご予約は外来予約センターにて承ります

時 間：平日 9:00～11:00 13:00～15:00 電話番号：042-346-2190(直通)

※ただし、初診(外科・消化器内科・循環器内科以外)はFAX申込みとなります。

*薬物依存症外来のご予約方法は当院ホームページ(<http://www.ncnp.go.jp/hospital/index.html>)から専門外来の案内をご覧ください。
注：精神科医師の新患担当曜日と再来担当曜日は多くの場合異なります。上記内容はあくまでも予定ですので、場合によって変更が生じることをご了承ください。

NC

NCP

診療ニュース

Vol.01

NCNP 診療ニュース 2017.10

< 目次 >

- ・ご挨拶1 p
- ・気分障害先端治療センター2 p
- ・認知症センター3 p
- ・病院改修工事4 p
- ・インフォメーション
市民公開講座 てんかんセンター5 p
- ・インフォメーション
医療連携講演会 市民公開講座ご案内6 p
- ・外来担当医表7 p

2017年10月発行

発行責任者 村田美穂(病院長)

国立精神・神経医療研究センター病院

〒187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1

電話 042-341-2711(代表) <http://www.ncnp.go.jp/>



理事長
水澤 英洋

ご挨拶

私たち国立精神・神経医療研究センター(NCNP)は、小児期から老年期に至までの生涯に亘る精神疾患と神経疾患の克服をミッションとする国立研究開発法人です。NCNPには病院、神経研究所、精神保健研究所があり、さらにトランスレーショナル・メデイカルセンター、統合脳画像センター、メデイカルゲノムセンター、認知行動療法センターを擁し、研究と診療を一体的に推進しております。これは世界広しといえどもNCNPに極めてユニークな特徴といえます。

例えば、研究所で開発した筋ジストロフィーや多発性硬化症の新しい治療薬について、病院で治験を行い既に製薬企業とも協力して米国でも治験が開始されております。機能回復・再生医療にも注力しており身体リハビリテーションはもちろん、精神リハビリテーションや社会復帰プログラムも大きな特徴です。

そのような象徴として、多発性硬化症、筋疾患、てんかん、パーキンソン病・運動障害疾患、地域精神科モデル医療、睡眠障害、統合失調症早期診断・治療、気分障害先端治療、認知症、嚥下障害、薬物依存症治療という11の領域の専門疾病センターがあり、最先端の診療と臨床研究を行っています。また、ナショナルセンターとして全国あるいは外国からの患者さんを多数受け入れておりますが、一部の専門疾病センターの名称にも入っているとおり、小平市を中心とする地域の医療・福祉にも広く貢献したいと考えております。また、NCNPには精神疾患を中心とした訪問看護ステーションもあり、研究所内にも摂食障害全国基幹センター、自殺総合対策推進センター、災害時こころの情報支援センター、小児の発達障害部門などが存在し幅広い活動を進めております。

本誌はNCNP病院ニュースから新しくNCNP診療ニュースとして生まれ変わりました。病院を中心としたNCNPの様々な診療活動を、地域の皆様、そして全国の皆様にご紹介してゆきたいと考えております。これからも変わらぬご支援のほどお願い申し上げます。

気分障害先端治療センター

Mood Disorder Center for Advanced Therapy



気分障害先端治療センター
功刀 浩

気分障害の先端的治療を実践し エビデンスを集積し、 最先端の病態解明研究を行い、 次世代の気分障害治療を構築します

うつ病や躁うつ病といった気分障害は休業、失業、自殺などの大きな要因となり、患者本人のみならず、国の経済にとっても大きな損失となっています。気分障害の原因はいまだに不明な部分が多く、診断は面接によって行われ、生化学的あるいは生理学的な指標や脳画像による診断法が殆どありません。また薬物療法が奏功しないケースも多く、気分障害の生物学的病態の解明と新たな治療法の開発は喫緊の課題です。

気分障害先端治療センターは、気分障害外来を軸に先端的な治療と研究を行います。患者様に対し、従来から行われている標準的な薬物療法や通電療法(ECT)を行うほか、他施設では殆ど行われていない先端的治

療法として、①経頭蓋反復磁気刺激療法(rTMS)、経頭蓋直流刺激療法(tDCS)等の脳刺激療法(ニューロモデュレーション)、②認知行動療法(物事の考え方を变えることで気分の改善を図る)、③認知リハビリテーション(記憶・学習などの認知機能の改善を図る)、④栄養学的治療(栄養面の詳しい検査に基づいた栄養補充や食品成分による治療)などの先端的治療に取り組みます。さらに、光トポグラフィー検査や短期入院による詳しい検査、疾患教育、デイケアによるリワーク(復職訓練)など、NCNPの資源をフル活用して治療を行います。1年間経過観察し、完全治癒と社会復帰をめざします。

研究面では、病院と研究所との連携体制を強化し、世界最大規模の脳脊髄液バイオリソースや血液試料をさらに蓄積し、先端的なオミックス解析を行うことによって脳内分子動態の解明とバイオマーカー開発とを行います。高精度脳画像データを多数収集し、新たな診断法の開発を行います。



認知症センター

Research Center
for NeuroCognitive Disorders: RCNCD



認知症センター
塚本 忠

今後人口が減少し続け、超高齢化を迎えるわが国にとって認知症にまつわる諸問題を克服することは喫緊の課題といえます。

認知症センターは、様々なバックグラウンドを持つ多職種の職員・研究者・臨床家が参加し、認知症治療・介護の問題となるBPSD(行動・心理症状)などに対して、精神科・神経内科・脳外科をはじめとする多診療科・多職種が協力して対応するなど、NCNPの特徴を活かして、認知症の治療・介護の実践と研究開発に大きく貢献する予定です。

NCNPでは元々精神科、神経内科などで認知症を含む様々な脳疾患を診療し、地域モデルの構築を含む地域との連携などで成果を挙げ、近年は国の要請を受けて様々な取り組みに参加するなど認知症への対応に努力しています。また2016年7月より東京都地域連携型認知症疾患医療センター(小平市)も設置されています。

これらの資源(リソース)をもとに、国が推進する新オレンジプランの七つの柱を参考に総合的に当センターの活動目標を設定しました。

- ①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- ②認知症の容態に応じた医療・介護法の研究
- ③若年性認知症(前頭側頭型認知症その他)の病態・治療の研究
- ④認知症の人の介護者・家族の支援法の研究
- ⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくり
- ⑥認知症の予防法・診断法・治療法・リハビリテーション法、介護法の開発・研究

上記目標のゴールに到達するために、認知症の人やその家族の視点を重視しつつ、認知症センターの構成員が臨床の場で、介護・看護の場で、地域との連携の場で、国の施策の場で、全力を尽くして研究・業務に邁進していきます。ご協力ご指導のほど、よろしくお願いいたします。



脳とこころの総合ケア病棟 ただいま準備中



病院長
村田 美穂

どのような疾患でも精神的サポートは重要ですが、特に神経難病患者さんでは精神的サポートは治療効果の向上のためにも、患者さんやご家族のQOLの改善にも極めて重要です。また、てんかんや認知症は精神科でも神経内科でも専門とする疾患ですが、診療科により少し得意分野が異なるため、両方の診療科が密に連携することで、より良い診療ができます。当院は国立精神・神経医療研究センターですので、精神科、神経内科がこれまで以上に密接に連携したモデル的医療を提供したいと考え、「脳とこころの総合ケア病棟」を開棟することにいたしました。病棟の枠組みは一般病棟ですが、神経内科医と精神科医が密に関わり、看護体制も精神科ケアのスキルを持っており、難

病看護研修などもすすめています。7月からは月に1回、関連各科の医師、看護師、臨床心理士、身体リハビリテーションセラピスト、ソーシャルワーカー、医事専門職等が集まり、よりよい病棟にするために話し合いを続けています。現在精神科病棟である4南病棟を改修して12月に新病棟(一般病棟)として再出発いたします。精神科病床数をできるだけ減らさないためにも3,4,5階は9月から1月まで病棟改修中。また、一般病棟の増床に対応するためにもリハビリテーションフロアの拡張工事も3月まで続きます。様々な工事があり、皆さまには騒音等ご迷惑、ご不便をおかけいたしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。



information

てんかんセンター 市民公開講座

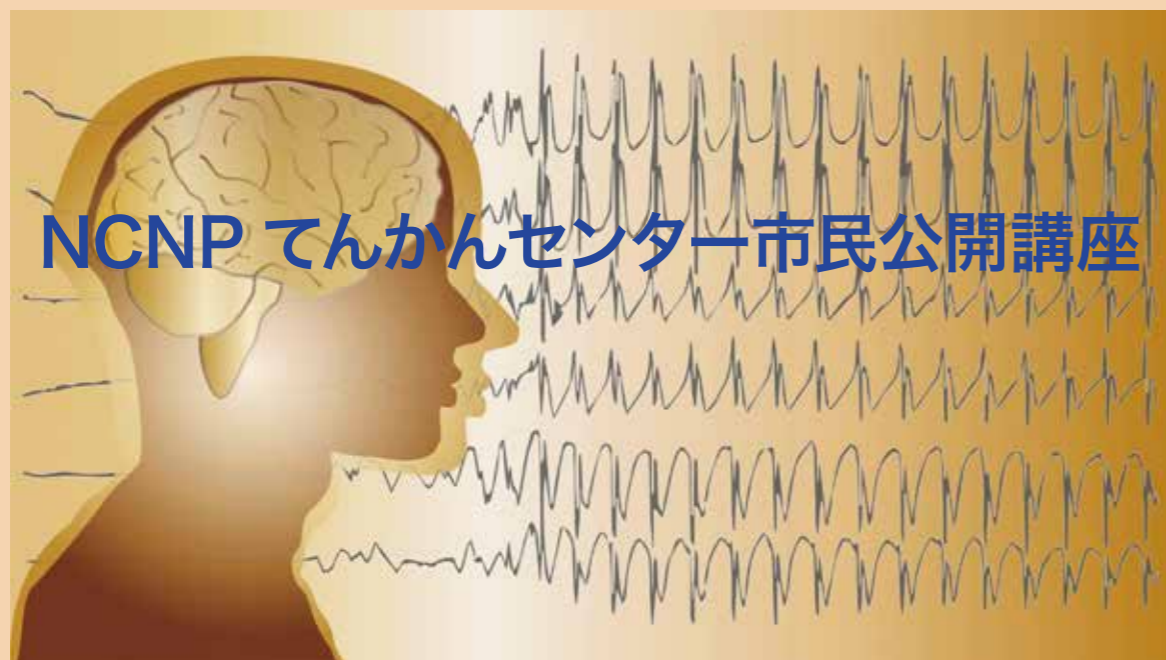


外来部長
中川 栄二

てんかんとは脳の慢性的な疾患で、大脳の神経細胞が過剰に興奮することで発作症状を引き起こす疾患です。てんかんは年齢や性別に限らず発症し、多種多様な発作を起こし、およそ100人に1人の割合で見られる身近な疾患です。時には、てんかんと気付かれにくい発作もあり、てんかんには様々な精神障害が高い頻度で合併します。てんかんの原因となった脳の損傷に関連するもの、繰り返すてんかん性放電による機能的脳障害が関与するもの、抗てんかん薬によって引き起こされる副作用によるもの、発作への不安や周囲の無理解・偏見などの心理社会的要因に基づくものなど、多彩な要因が関係します。てんかんが様々な精神障害発症の高いリスクとなるだけでなく、大うつ病、双極性障害、精神病性障害などの各種精神疾患があると、てんかんの発症リスクが増すことから、てんかんと精神疾患の間には共通する

素因の存在が報告されています。

また、てんかんに合併する症状には、自閉スペクトラム症や注意欠如多動症などの発達障害があります。発達障害は先天性の脳機能障害のために、幼児期から発達に何らかの遅れや困難が生じる障害です。脳内の情報伝達は大きく興奮性と抑制性のシグナルによって行われます。てんかんは神経細胞の興奮・抑制バランスが興奮性に傾き、結果として適切な情報伝達が行われず脳波に発作性の異常がみられます。発達障害の場合も同様の偏りが認められています。てんかんに発症していない発達障害者でも発作性の脳波異常が認められています。てんかんでみられる神経細胞の興奮・抑制バランスの乱れが、どのようにして発達障害を引き起こすのかなど最新の知見や薬物治療についてお話いたします。



てんかんセンター市民公開講座

2018年1月28日(日) 午後13時～
於：ユニバーサルホール
「てんかんと精神症状・発達障害」

講演内容
病院精神科 岡崎光俊：てんかんと精神症状
精神保健研究所知的障害研究部
加賀佳美：てんかんと注意欠如多動症
病院小児神経科 中川栄二：てんかんと自閉スペクトラム症

information

2017年秋 医療連携講演会のご案内



副院長・医療連携福祉部長
三山 健司

今年は夏から秋にかけて例年とは異なった天候が目立ちましたが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか？日頃から、国立精神・神経医療研究センター病院に連携を賜り、当院に患者様を御紹介頂きあるいは当院からの紹介の患者様を御診療頂いている医療機関の皆様へのご案内です。



当院では、昨年春初めて、日頃お世話になっている医療機関の皆様との連携の会を持つ事ができました。本来、年2回の開催を目指しておりましたが、昨年度は準備態勢が整わず、やっと今春2回目の会を開催いたしました。昨春は「働く人のメンタルヘルス～ストレスチェックから復職支援まで～」、今春は分野を変えて「てんかん」をテーマとする講演とさせていただきます。

当院では、昨年春初めて、日頃お世話になっている医療機関の皆様との連携の会を持つ事ができました。本来、年2回の開催を目指しておりましたが、昨年度は準備

ようやく体制を整え今年度2回目の連携の会を催す事になりました。今回も当センターの得意とする分野からのテーマとして「認知症」についての講演を第1部に、第2部として情報交換の会を持たせて頂くことに致しました。診療の実際ばかりでなく、当センターで行っている研究にも触れた、連携頂いている医療機関の皆様にもご満足いただける内容にしたいと存じます。

皆様ご多忙中とは存じますがご参加頂ければ幸いに存じます。ご参加頂けます場合は10月31日までに「貴施設名、お名前、ご職名」をメールまたはファックスにて、ご連絡をお願い申し上げます。(出欠用紙を同封いたします。)なお不順な天候も見込まれますこの頃、御健勝にお過ごしいただきますようお祈り申し上げます。



平成29年度医療連携講演会

日時：11月16日木曜日
19時30分
会場：ユニバーサルホール1階
19時30分～講演会
講演終了後情報交換会
(軽食がでます)



出欠などの問合せは下記
国立精神・神経医療研究センター病院
医療連携室(直通TEL) 042-346-1845
(直通FAX) 042-346-1681
(MAIL) renkei@ncnp.go.jp

市民公開講座『パーキンソン病とその治療法を知ろう!』

日時：2017年11月18日土曜日 午後3時～午後5時
場所：国立精神神経医療研究センター病院 ユニバーサルホール
対象者：パーキンソン病患者さん、そのご家族、またパーキンソン病にご興味のある方

概要：パーキンソン病の薬物治療や日常生活での注意点などについて、神経内科専門医が丁寧にわかりやすく説明いたします。また、パーキンソン病の手術治療として脳深部刺激療法(DBS)があります。こういった患者さんがDBSに向いているのかや、手術の実際について、脳神経外科専門医が丁寧にわかりやすく説明いたします。



脳神経外科部長
岩崎 真樹